



環境創造センターについて

令和7年3月18日 福島県環境創造センター

1 福島県環境創造センターの概要



①環境創造センター（三春町）



②環境放射線センター（南相馬市）



③福島支所（福島市）



④野生生物共生センター（大玉村）



⑤猪苗代水環境センター（猪苗代町）

整備趣旨

原発事故により甚大な被害を受けた本県において、県民が将来にわたり安心して生活できる環境の回復・創造に向けた取組を行う総合的な拠点として、国の支援を受け福島県が設置

環境創造センター中長期取組方針（平成27年度～令和6年度）

環境創造センターの4つの機能（モニタリング、調査研究、情報収集・発信、教育・研修・交流）について運営方針を規定。福島県、日本原子力研究開発機構（JAEA）及び国立環境研究所（NIES）の三機関が、効果的・効率的に取組を行うため、平成27年度～令和6年度までの10年間の基本的な事業方針を社会情勢等の変化等を考慮し、3つのフェーズで段階的に策定。

福島復興再生計画（令和4年12月内閣総理大臣認定）

福島県の環境の現状や放射線についてわかりやすい情報発信、子どもたちの未来を創造する力を育む放射線教育や環境教育に引き続き取り組む。

※ 他にも研究・開発等の記載あり。

現在までの経過

- 平成24年10月 環境創造戦略拠点基本理念及び環境創造センター基本構想策定
- 平成27年 2月 環境創造センター中長期取組方針策定
- 平成27年 4月 JAEA及びNIESとの連携協力に関する基本協定締結
- 平成27年10月 福島県業務開始
- 平成28年 7月 交流棟「コミュニティ福島」開館により全面供用開始
- 平成31年 2月 環境創造センター中長期取組方針改定（フェーズ2）
- 令和4年 2月 環境創造センター中長期取組方針改定（フェーズ3）
- 令和5年 4月 福島県気候変動適応センターを環境創造センターに設置
- 令和6年 7月 JAEA、NIES及び福島国際研究教育機構（F-REI）との連携協力に関する協定締結

福島県、JAEA、NIES及びF-REI



< 環境創造センターの4つの機能について >

モニタリング

- ① きめ細かで継続した環境放射能モニタリングシステムの充実・強化
- ② 一般環境及び廃棄物処分施設などに係る有害物質等モニタリングの実施
- ③ モニタリングデータの一元管理、解析・評価
- ④ 緊急時におけるモニタリング体制の構築・運用

調査研究

- ① 放射線計測
- ② 除染・廃棄物
- ③ 環境動態
- ④ 環境創造

情報収集・発信

- ① モニタリングデータの収集・発信
- ② 調査研究成果の収集・発信
- ③ 環境回復・地域再生・環境創造に関する情報の収集・発信
- ④ 交流棟における取組

教育・研修・交流

- ① 放射線等に関する教育
- ② 環境の回復・創造に関する研修
- ③ 県民・NPO・関係機関等との交流

環境創造センター交流棟「コミュニティ福島」

放射線や福島の状況の正確な理解を目的とした情報発信や放射線教育、環境教育の拠点となる施設。



2 推進体制

(1) 福島県、JAEA、NIES及びF-REIとの連携協力

- 原子力に関する総合的な研究を行う「JAEA」、日本の環境研究の中核を担う「NIES」、創造的復興の中核拠点を目指す「F-REI」、そして福島県の4機関が連携協力
 - ・放射性物質の環境動態に関する研究の一体的・総合的推進
 - ・コミュニティ福島を活用した情報発信、教育・研修等の取組にも各機関の強みを活かす



(2) 環境創造センター中長期取組方針

- 県、JAEA、NIESの3機関による取組を効果的・効率的に行うことができるよう定めた、平成27年度(2015年度)から令和6年度(2024年度)までの10年間の基本的な事業方針
- 今後の社会情勢の変化等を考慮し、三つのフェーズによる段階的な方針を策定

(3) 福島県とIAEAとの協力

- 原子力に関する高度な知見を有するIAEAとの間で協力覚書を締結（～令和9年12月）

覚書

福島県とIAEAとの間の実施取決め（放射線モニタリング・除染）

福島県立医科大学とIAEAとの間の実施取決め（人の健康）

外務省とIAEAとの間の実施取決め（緊急時対応）

※ 令和6年度はIAEAによる県内大学生（福島大学・東日本国際大学）等を対象とした放射線などに関する講義を実施

3 モニタリング これまでの取組

(1) 環境放射能モニタリング

- ・ 総合モニタリング計画等に基づく環境放射能モニタリング

- ① 放射性物質濃度の分析

- 日常食、港湾・漁港の海水、海底土、水浴場、地下水、河川・湖沼、大気浮遊じん、土壌、水道水、その他（野生鳥獣）

- ② 空間線量率の測定

- 自動車走行サーベイ、メッシュ調査、観光地、集会所（公民館）、児童福祉施設、学校等（学校、幼稚園、保育園）、都市公園等

(2) モニタリングデータの一元管理等

- ・ モニタリング結果の公表

- ・ 県所有のサーベイメータ等の校正

(3) 緊急時放射能モニタリング

- ・ 緊急時モニタリングに係る訓練の実施、EMC訓練への参加

- ・ 台風、豪雨災害に伴う環境放射能モニタリング

(4) 有害物質等モニタリング

- ・ 復興・再生に向けた取組に伴う環境影響等調査

- ① 中間貯蔵施設における周辺環境への影響調査

- ② 特定廃棄物埋立処分施設等における周辺環境への影響調査

- ・ 「ふくしまグリーン復興構想」実現に向けた猪苗代湖調査

- ・ 一般環境や工場排水・排ガス中の有害物質等モニタリング



4 調査研究事業 行政課題を踏まえたこれまでの調査研究の成果



(1) 放射線計測部門

海水のトリチウム迅速分析法の検討

- ・トリチウムは社会的関心の高い放射性物質であり、詳細な情報(モニタリング結果等)が求められている
- ・低濃度トリチウムの迅速分析法の検討を実施

⇒ 分析手法の知見は
県の海水モニタリ
ングに活用



(2) 除染・廃棄物部門

仮置場の原状回復実証実験

- ・仮置場を農地へ原状回復する際の技術的課題を解決するため、実証実験を実施
- ・土が締め固まっている場合には、深耕を行うことで表土の流出を抑えることができることを確認

⇒ 原状回復事例集を
まとめ市町村へ展開



4 調査研究事業 行政課題を踏まえたこれまでの調査研究の成果

(3) 環境動態部門

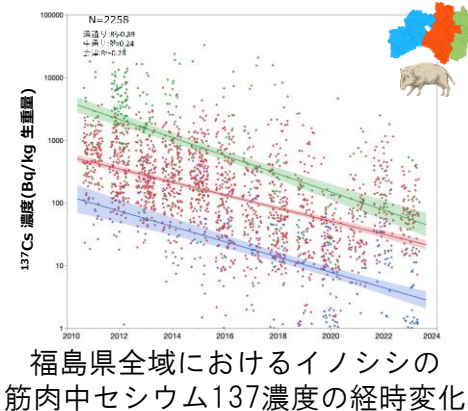
移行挙動評価

- 河川水中の放射性セシウム濃度は、事故直後から継続して低下する傾向を確認
- 低下速度に流域の土地利用状況が影響することを確認

⇒ **成果はIAEA技術報告書のほか、筑波大を中心とする研究ネットワークのデータベースで公開**

生態系への影響把握

- 福島県内全域でイノシシ等の筋肉中の放射性セシウム濃度を測定
- 地域ごとに汚染の程度は異なるものの、経時的に減少する傾向を確認



福島県全域におけるイノシシの筋肉中セシウム137濃度の経時変化

⇒ **成果は県の捕獲イノシシの処理に関する技術資料に掲載されたほか出荷・摂取に係る検討会で活用**

(4) 環境創造部門

自然豊かなくらしの実現

- 水質浄化実証施設により、植生浄化による水質改善効果等を確認
- 猪苗代湖水質予測モデルを構築し、水質目標達成のための河川の栄養塩類等の負荷削減率を算定



高校生・大学生を対象とした水質浄化実証施設の見学の様子

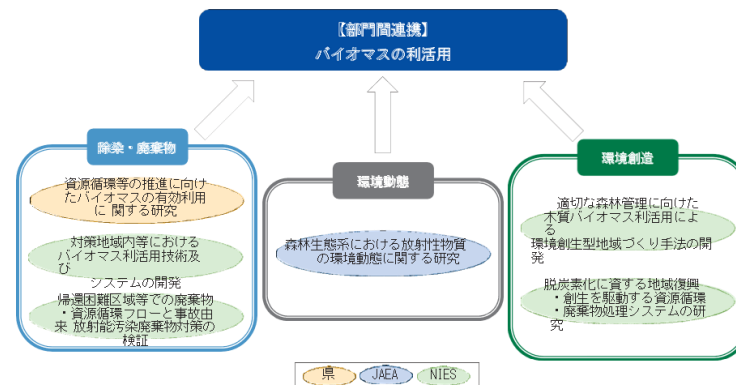
⇒ **成果は県の猪苗代湖の水環境保全推進計画に掲載**

(5) 部門間の連携

バイオマスの利活用

- 再生可能エネルギーの普及促進や循環型社会の構築に向け、バイオマスの利活用が重要であるが、福島県では放射性物質の問題があるため、部門間で連携して研究を実施

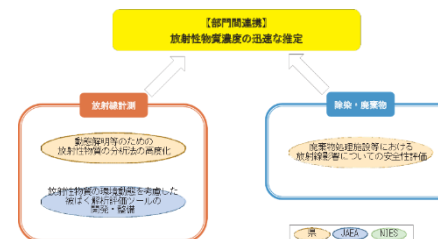
⇒ **成果を事例集にまとめ事業者や市町村に展開 (令和6年度中に実施予定)**



放射性物質濃度の迅速な推定

- 福島県内で発生した災害廃棄物は放射性物質による汚染が懸念されるため迅速な濃度の把握が必要
- 前処理工程や濃度の推定手法の研究を実施

⇒ **成果を報告書にまとめ市町村に展開 (令和6年度中に実施予定)**



5 情報収集・発信



(1) 交流棟「コミュタン福島」を活用した情報発信

- ・復興の進展や環境を巡る社会情勢の変化を踏まえ展示室を更新し、地球温暖化やSDGsに関する学習を支援
- ・連携機関であるJAEA、NIESの研究成果を展示コンテンツとして発信（「マッピングふくしま」、「3Dふくしま」など）



(2) ウェブサイトを活用した情報発信

- ・「コミュタン福島」の情報について、オンラインコンテンツ「おうちdeコミュタン」を公開
- ・各種放射能検査の結果をウェブサイトに集約し情報発信（英語版ページも作成）



(3) 研究成果等の情報発信

- ・環境創造センター3棟（本館・研究棟・交流棟「コミュタン福島」）を周遊するイベントを開催し、小学生等に対して分かりやすく研究成果等を発信
- ・研究成果について、口頭発表に係る動画やポスターをウェブサイトに掲載し発信

6 教育・研修・交流



(1) 放射線等に関する学習活動への支援

- ・ 県内小中学校における放射線教育を支援（交通費補助拡充、学習指導要領の改訂に対応した学習プログラム等の提供）
- ・ SDGsや世界的な環境問題に対応した学習プログラムの開発・提供



(2) 環境の回復・創造に関する研修等の実施

- ・ 各年齢層を対象とした人材育成講座の実施
- ・ 自然共生、猪苗代湖水環境保全等をテーマとした環境学習会を開催



(3) 県民・NPO・関係機関等との交流

- ・ 環境創造シンポジウムを開催し、児童・生徒、NPO、研究機関等の交流の機会を創出
- ・ 国立科学博物館との協定に基づき、環境創造シアターにおいて国立科学博物館のオリジナル番組を上映

7 交流棟 コミュタン福島 について

子どもたち・県民とともにふくしまの未来を創造する“対話と共創の場”



放射線教育の支援



環境創造に向けた意識の醸成

(1) コミュタン福島とは

- 放射線や原子力災害を経験した福島についての正確な理解を促進するための学習施設

- ①設置、運営者 … 福島県
- ②オープン … 平成28年7月21日（令和5年3月19日にリニューアルオープン）

(2) コミュタン福島の特徴

- 震災、放射線や環境について学ぶことができる展示
- スタッフとの対話により理解促進
- 展示は、日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）及び韓国語に対応
- 放射線や環境に関する実験など体験研修プログラムも充実



ふくしまの“今”を知る



国立科学博物館 巡回展

(3) 様々な機関との連携

- 国立科学博物館等と連携・協力した取組
- 東日本大震災・原子力災害伝承館等の震災伝承施設と連携した取組
- 県内団体と連携したイベントやアウトリーチの実施



研究成果の発信



来館者70万人記念セレモニー

70万人突破!

<来館実績>

	平成28年度 (7/21~3/31)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (~2/28)	累計
来館者数	51,969	99,139	92,348	97,523	44,260	59,960	67,397	97,765	90,789	701,150
県内小学校 利用率	38%	56%	54%	56%	43%	53%	50%	56%	56%	—